

ダイズクキタマバエによる被害症状の特徴

～ 大豆の茎の中に発生するウジ虫 ～

要約

明治～昭和初期に北日本各地で大豆皆無作を引き起こした“ダイズクキタマバエ”の被害症状と大豆作付期間中の発生の特徴がわかりました。

研究成果の概要

1. 背景・目的

平成29、30年に県内一部地域で複葉数枚が枯死し、葉柄部分に不定形の褐色斑を呈したダイズが確認されました。県内では稀な症状だったことから、原因となった害虫を同定し、被害症状と発生実態を調査しました。

2. 内容

○種名：ダイズクキタマバエ (*Resseliella soya*)

○被害症状の特徴

- ・葉脈が褐変し、葉が枯死・落葉します。
- ・茎に不定形の褐色斑が現れます。
- ・多発時は主茎から折れて倒伏する場合があります。

○形態的特徴

- ・老熟幼虫は体長3mm内外で、橙色をしています。
- ・成虫は雌2.4mm、雄1.6mm内外で、蚊のような見た目をしています。翅と脚部の斑模様が特徴です。

○発生の特徴

- ・大豆作付期間中に2回発生します。
- ・幼虫は葉柄→主茎の順に食害します。
- ・平坦地よりも山間地で多発する傾向があります。

3. 活用等

ダイズにおけるダイズクキタマバエの特徴と被害症状を明らかにすることにより、早期発見が可能となり、被害拡大を防止することができます。



左:枯れた小葉 中央:複葉が枯死し、下位葉が落下した株 右:茎表面の不定形斑

図1 ダイズクキタマバエ幼虫による被害症状



左:若中齢幼虫
中央:老齢幼虫
右:成虫

図2 ダイズクキタマバエ成幼虫

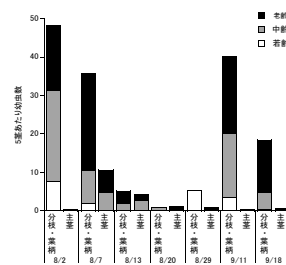


図3 幼虫の部位別発生推移

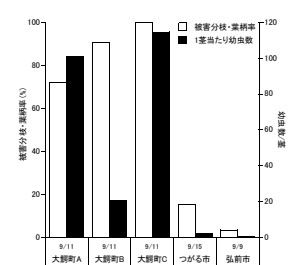


図4 幼虫数と被害割合

関連情報

- ・ 本種に対する登録薬剤は令和3年8月現在ありません。
- ・ 本種の同定は肉眼では困難なので、関係機関に同定を依頼してください。